

# 読書推進運動

公益社団法人  
読書推進運動協議会

〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町1-32  
出版クラブビル6階  
TEL 03(5244)5270  
FAX 03(5244)5271

発行人 佐々木 泰  
編集人 片岡 伸子

定価 60円 会員の購読料は  
会費の中に含まれる

No. 703

- ★「上野の森 親子ブックフェスタ」開催(2頁)
- ★「第65回 全出版人大会」開催(4・5頁)



## 「本の街」は文化と人を育む街

### 世界一クールな街・神保町には 見どころがいっぱい!

一般社団法人日本ペンクラブ 副会長  
児童文学・文化評論家

野上 暁

イギリスのガイド誌『タイムアウト』による2025年度の「世界で最もクールな街」ランキングでNo.1に選ばれた神保町には、近現代の文化遺産ともいえる魅力的なスポットがたくさんある。

江戸時代、旗本の神保長治の屋敷があったことから名づけられた神田神保町が、世界でも珍しい本の街となったのは、なんと幕末のペリー来航に由来する。黒船来襲にあわてた徳川幕府は、外交上の必要性から洋学を扱う「蕃書調所」を九段下に開設。それが後に学士会館の場所に移り、たびたび名称を変更して1877(明治10)年、東京大学となり、相前後して東京外国語大学など国立大学の前身が神保町界隈に誕生する。

現在、九段の昭和館の隣に「蕃書調所跡」の看板、学士会館には「東京大学発祥の地」の記念碑、一ツ橋の学術総合センターには「東京外国語学校発祥の地」の石碑がある(学士会館の敷地内には、お雇い外国人が初めて野球を紹介した「日本野球発祥の地」のモニュメントも)。

当時は、お雇い外国人が原書で講義していて、教科書に洋書が使われていた。洋書は高価なので使い回しされ、古本店が生まれる。1877年、さくら通りに有斐閣が、その4年後に三省堂が、いずれも古書店として誕生し、後に出版社や新刊書店となり現在も同じ場所で営業中だ。富山房や東京堂も明治期に創業され、大正期には岩波書店、平

凡社、白水社、主婦の友社、大修館、小学館・集英社なども次々と創業され、日本の出版文化を支え続けている。

明治10年代には、専修大学、中央大学、法政大学、明治大学、日本大学の前身となる法律専門学校などが次々と設立され、神保町界隈は日本最大の学生街となり、古書店や出版関連産業が集まる本の街となっていく。

そこには、森鷗外、夏目漱石、正岡子規、樋口一葉、谷崎潤一郎など多くの文豪たちも住み、文学史に輝く名作を残した。鷗外の『雁』『護国院原の敵討』、漱石の『こゝろ』『門』、子規の『筆まかせ抄』、一葉の『十三夜』、谷崎の『美食倶楽部』などには神保町の様子が克明に描かれている。

漱石が通ったお茶の水小学校(旧錦華小学校)にある「吾輩が猫である」の石碑は有名だ。また、日清戦争以後、中国から大挙して来日した留学生が神保町界隈に住んだことから中華料理店がたくさんできた。孫文や周恩来が常連となった漢陽楼は今もあり、周恩来の好物メニューも残されている。中国人留学生のための日本語学校・東亜高等予備学校跡地の愛全公園には、「周恩来ここに学ぶ」の石碑がある。

三省堂書店は、今年の3月に新ビルで新装開店。「歩けば、世界がひろがる書店。」としたユニークな棚作りで話題になっている。子どもの本専門店のブックハウスカフェ(北沢書店1階)も、人気スポットのひとつだ。

10月末の「神保町ブックフェスティバル」にあわせ、出版クラブの3階クラブライブラリーで、「本の街・神保町を元気にする会」発行の『神保町が好きだ!』をもとにした「本が好きだ! 神保町が好きだ!」展も開催を予定している。



# ★上野の森 親子ブックフェスタ★



4日早朝には、7トントラック2台、4トントラック6台で本を一斉搬入!

5月4日(月)・5日(火) 東京都台東区の上野恩賜公園で「上野の森親子ブックフェスタ2026」(主催)子どもの読書推進会議/日本児童図書出版協会/一般財団法人出版文化産業振興財団)が開催された。晴天のもと、家族連れや子どもの本に関心を寄せる人など、昨年の約3万4000人を上回る



【左】『サバイバル』シリーズのガチャガチャも登場 来場者に描いてもらった動物イラストを展示



台湾文化センターブースでは、台湾の人気絵本が多数展示!

初日の開場時には、入場を待つ人たちの長い行列ができるなど、「春の大型図書イベント」としてすっかり定着。各出版社ブースでは、おはなし会や作家のサイン会、グッズの販売なども行われた。

約3万6300人が訪れた。謝恩価格での児童書販売「子どもブックフェスティバル」には、85社・者が出展、絵本、児童書を中心に約6万冊が会場内に展示され、2日間の売り上げは4450万円と、こちらも前年を大きく上回った。



かさいまりさんと岡田千晶さんは笑顔でサイン会!



講演会で釣り竿を伸ばす最上一平さん。先端は矢印の位置ですが、このあとさらに伸びていき、参加者たちはビックリ!



5日には、国立国会図書館国際子ども図書館で、最上一平さん(児童文学作家)の講演会「私の好きな人たち―作品を通して」が開催された。最上さんは講演会の冒頭で、愛用の釣り竿を披露。釣りのエピソードからはじまり、ふるさと山形県朝日町で出会った人や、家族など、自分の作品を支えてくれた人たちの交流と作品との関連を紹介した。



開始から終了まで、フェスティバル会場は大にぎわい! 各出版社ブースでは、子どもも大人も熱心に本を手にとっていました

■第31回 日本絵本賞

# 今、子どもたちに届けたいテーマを 描き切った2作品が大賞に！

公益社団法人、全国学校図書館協議会（全国SLA）は「第31回日本絵本賞」について、4月23日

（休）に東京都文京区の全国家電会議において最終選考会を実施し、2025年に出版された絵本より

選ばれた最終候補絵本30点（うち翻訳絵本9点）より4点の受賞作を決定、5月15日（金）に発表された。

読書推進運動協議会事務局長は同賞の選考委員を務めている。各賞は以下のとおり。

●日本絵本賞大賞

『ある星の汽車』

森洋子／作（福音館書店）

●日本絵本賞大賞

『いま、日本は戦争をしている..』

太平洋戦争のときの子どもたち』

堀川理万子／絵と文（小峰書店）

●日本絵本賞

『もりのあき』



日本絵本賞大賞の『ある星の汽車』

出久根育／作（偕成社）

●日本絵本賞翻訳絵本賞

『ぼくのすみっこ』

ジョオ／作、かみやにじ／訳（ほるぷ出版）

今回は日本絵本賞大賞が2作品となった。最終選考会の冒頭から選考委員の評価が上記の2作品に集中。委員5名の一致した意向により同時受賞が決まった。

『ある星の汽車』は、ノスタルジックとディテールたっぷりに描かれた夜汽車が舞台。乗りあわせているのは細部まで描きこまれた衣装を身に着けることで擬人化された動物たちだが、駅に着くたび下車する動物がいる。駅の標識には特定の年が書かれていて、これがその動物が絶滅した年である。夜汽車を地球に見立てて、地球の「来し方行く末」について考えずにはいられない展開だ。テーマの大きさとそれをみごとに表現する画力、造本もすばらしい。

『いま、日本は戦争をしている..』太平洋戦争のときの子どもたち』



日本絵本賞大賞の『いま、日本は戦争をしている』

は、現在高齢となり、存命者も少数となった戦争体験者取材。やわらかいタッチでいねいに表現された絵と的確な文章で、それぞれの体験者のエピソードをきわめて具体的に再現することに成功している。一人ひとりの体験は個別のものだが、17の物語を通して読むことで、戦争の真相、その理不尽さが鮮烈に浮かびあがってくる。

『もりのあき』は、しっとりとした色使いで、森に出かけた少女を描く。少女の繊細な感性と、みずみずしい朝の森、ひそやかな夜の森をみごとに表現している。

『ぼくのすみっこ』は、本の「ノド」を部屋のコーナーに見立てて展開する実験的なデザイン性が高く評価された。

全国SLAのホームページでは「日本絵本賞ポップ交流サイト」を開設。「好きな絵本のポップを描いてみよう!」との趣旨で、最終候補絵本のオリジナルポップを募集している（7ページに詳細）。

■日本児童文芸家協会 各賞贈呈式

# 困っている子どもたちによりそつ あなたかなノンフィクションが受賞

一般社団法人 日本児童文芸家協会は、5月26日（火）、東京都千代田区の出版クラブホールにて、「2026年度 児童文化功労賞・協会賞・新人賞 贈呈式」を開催した。

●今年度の受賞作・受賞者

【第50回 日本児童文芸家協会賞】

別司芳子『スマイルカットでみんな笑顔に!』

【第55回 児童文芸新人賞】

高村有『思いがけず、朝子ちゃん』

高村有『思いがけず、朝子ちゃん』

高村有『思いがけず、朝子ちゃん』

（童心社）



協会賞と新人賞は、出版社も表彰される

協会賞の『スマイルカットでみんな笑顔に!』は、はさみが怖い、じつと椅子に座っていられないなど、調整時に大きなストレスを抱える子どもたちによりそつ美容師さんを取りあげたノンフィクション。別司さんは、「取材に行き、人と会うことが大好き。支えてくれた一人ひとりに感謝します」と述べた。

新人賞の『思いがけず、朝子ちゃん』は、花屋で働く25歳の女性と小中学生たちとの出会いを描く連作短編集。複数の同人誌に掲載された短編に手を加えてまとめあげた一冊となっている。

読書のアニメーション研究会は、1997年に発足。学校や図書館で使える「読書を楽しむ手法II アニメーション」を開発し、普及させてきた。北海道、青森、鹿児島、徳島、沖縄に支部があり、各地域の特色を活かした活動をしている。

■第65回全出版人大会

厳しい状況の中でも出版文化の可能性を追及していく姿勢を確認

ゴールデンウィーク明けの5月7日(木)、東京都千代田区のホテルニューオータニで「第65回全出版人大会」主催「日本出版クラブ」が開催され、出版関係者約400人が出席した。

野間省伸大会会長・日本出版クラブ会長(講談社社長・読書推進運動協議会会長)の、65回を数えるこの大会の歴史と意義について語る開会のあいさつに続き、大会委員長を務める鉄尾周一氏(マガジンハウス社長)が登壇、マガジンハウスが大会委員長を務めるのは、1996年の木滑良久社長当



野間大会会長による開会あいさつ

(時) 以来とのこと。

鉄尾氏は、日本の出版販売額がその1996年をピークに減少してきたことについて語り、近年の出版業界をとりまく厳しいコンディションにも言及した。そううえて出版文化の将来的な可能性についての大会声明を読みあげた。(本文は5ページに掲載)

来賓として伊藤学司文化庁長官と倉田敏子国立国会図書館長が出席。4月に就任したばかりの伊藤長官は、日本のコンテンツの海外市場への進出の拡大について述べた。また倉田館長は、出版活動と国会図書館の連携について語った。

来賓祝辞のあと、恒例の長寿者祝賀(31名)、永年勤続者表彰(237名)が行なわれた。長寿者表彰では下中美女都平凡社代表取締役会長に飯窪成幸大会委員(文藝春秋代表取締役社長)から、永年勤続者表彰では、川口裕平氏(日教出版)には小野寺優大会副会長(河出書房新社代表取締役社長)から、それぞれ表彰状と記念品が授与さ



林真理子さんは4年間の大学理事長生活も講演で紹介

れた。

続いて講演に移り、作家の林真理子氏が登壇。まず4年間務めた母校、日本大学の理事長を6月で退任することにふれ、就任当初は周囲からネガティブな反応があるなかでガバナンスを再構築してきたとし、一定の成果を上げたとの自負を語った。これからは作家に専念すること。さらに、鉄尾周一氏、飯窪成幸氏が若いころの自分の担当者だったエピソードを披露、会場をわかせていた。

講演終了後、懇親パーティが行われた。あいさつに立った池田和博大会顧問(丸善出版代表取締役会長)は、本をつくることの重みとその歴史について語った。出版にかかわる多くの参加者のにぎやかな交流が続いた。

■日本児童文学者協会 各賞贈呈式

重たいテーマを子どもの心に届ける力のある作品が受賞

(ぶんしん出版)

一般社団法人 日本児童文学者協会は、5月29日(金)、東京都千代田区の出版クラブホールにて、2026年度の協会文学賞贈呈式を開催した。

●今年度の受賞作・受賞者

【第66回 日本児童文学者協会賞】

朽木祥『しずくと祈り「人影の石」の真実』(小学館)

【第59回 日本児童文学者協会新人賞】

黒田季菜子『あの日、ともに見上げた空』(Gakken)

【第30回 三越左千夫少年詩賞】

あさとゆり『こうしとちようちよ』



左から黒田さん、朽木さん、あさとさん

『しずくと祈り「人影の石」の真実』は、「ヒロシマの物語は、私ひとりのものではない。負の記憶が心に届けば、未来は平和になる」と、長年原爆について書いてきた朽木さんの集大成とも言える作品。膨大な資料から、個々人の日常など小さな事実を丹念に積み重ねることで、原爆という空前絶後の事件の輪郭を浮かびあがらせている。

『あの日、ともに見上げた空』は、発達障がいという重なりがちなテーマを、軽妙なストーリーと安心感ある文体で描いている。黒田さんは、「テーマである『インクルーシブ』ということばを、作中では使わなかった。読んだ子どもが大きくなつてから、『インクルーシブって、こんなことなんだ』と思ってくればうれしい」と語った。

『こうしとちようちよ』は、粗削りではあるが、豊かな発想と新鮮さが魅力の詩集。あさとさんは「詩が好きなきがひとりでも増えるとうれしい」と受賞の喜びを述べた。

# 第65回全出版人大会 大会 声明

日本カルチャーを取り巻く世界の空気は、明らかに変わりました。

その先鞭をつけたのは、言うまでもなく漫画です。物語の力、キャラクターの魅力、そしてそこに描かれる唯一無二の世界観が、国境を越え、世代を越え、多くの読者に受け入れられてきました。その流れは、音楽、映画、アート、ファッションへと広がり、いま「Japan」という言葉は、独自のカルチャーとしての信頼を伴って語られるようになっていきます。

そして今、村上春樹氏だけでなく、王貞治氏、川上未映子氏、村田沙耶香氏、柚木麻子氏をはじめ、多くの日本の作家の作品が言葉の壁を超えて世界で語られることは、決して特別な出来事ではなくなりました。日本の出版カルチャーが生み出す熱量は、客観的に見ても、いま、これ以上ない高まりを見せていると言つてよいでしょう。

## 直視すべき国内の課題と「海外」という選択肢

一方で、国内に目を転じれば、私たちは厳しい現実を直面してい

ます。若い世代の本離れ、書店の減少、資材と物流経費の高騰。私たちが向き合ふべき課題は、決して少なくありません。

世界からの大きな評価と、国内での構造的な課題。このギャップを埋めるためには、各問題に真摯に向き合っていくことはもちろん大切ですが、作り手だけでなく書店、流通、制作、全てを含めた日本の出版業界全体が、海外に目を向けてみることも、一つの転換点になるのではないのでしょうか。

## 出版が生み出すコンテンツの力

経済産業省のデータによれば、日本の「コンテンツ産業」の海外売上は、この10年間で約3倍に成長、2023年には約5.8兆円に達し、すでに鉄鋼や半導体の輸出額を超えました。政府はこれを「基幹産業」と位置づけ、2033年までに、最大の輸出版業である自動車産業に匹敵する「20兆円規模」へ引き上げるという高い目標を掲げています。

資源を持たないわが国にとって、言葉や物語、キャラクターといった、いわば「無から価値を生

み、育て、多角的に展開できる可能性を秘めたコンテンツ」は、新しい時代を開く最も重要な資源です。出版は、その源流にあります。漫画、小説、ノンフィクション、雑誌。それらは今、映像や舞台、グッズ、体験型イベントへと広がる、あらゆるエンタテインメントの出発点となっています。

## C 書店の再生 英米に見る「3つの

国内では、書店の減少が嘆かれる一方で、海外では驚くべき逆転現象も起きています。例えばアメリカでは、長らく「書店はオンラインに駆逐される」と言われてきましたが、近年は独立系書店を中心に店舗数が増加しています。全米の独立系書店による団体、ABAの報告によれば、会員数は右肩上がり、2024年だけでも300店舗以上の独立系書店が新たにオープンしました。

なぜ、彼らは成功したのか。ハーバード・ビジネス・スクールのライアン・ラファエリ准教授は、この成功を「3つのC」という言葉で説明しています。

一つ目は、Curator（キュレーター）。アルゴリズムによる推奨ではなく、信頼できる書店員の「目利き」による選書が、改め

て評価されています。二つ目は、Community（コミュニティ）。書店が単に本を売る場ではなく、地域の文化拠点（サードプレイス）としての役割を強めています。三つ目は、Convening（コンビニング：集いの場）。デジタル疲れを感じる人々にとって、紙の本の感触や共通の趣味を持つ人との交流は、代替できない価値となっています。

## 日本の可能性と、これからの連帯

日本でも、こうした再生の息吹はすでに現れています。海外10カ国47店舗に拠点を広げ、日本の出版文化を「体験」と共に輸出し続けている紀伊國屋書店の姿は、私たちの進むべき道を照らしています。また、開業のハードルを大胆に下げること、開始一年で全国に50以上の新しい本屋を生み出した「HONYAL（ホンヤル）」。「本と過す豊かな体験を再定義し、新しい読者層を開拓している『文喫（ぶんき）』」。

視点を変えれば、私たちが右肩上がりに転じるチャンスは、決して少なくありません。出版社はもちろん、書店、取次、印刷など出版に関わるすべての関係者が、日本の優れたコンテンツを海外に輸出するとともに、海外の成功例を

ヒントに立場や役割の違いを超えて知恵を出し合い、連携していくことが欠かせないのではないのでしょうか。

守るべきものは守りながら、変えるべき構造は、少しずつでも確実に変えていく。国内の基盤を大切に守りながら、同時に世界という広大な市場にチャレンジし、その肥沃な果実が、さらに国内の出版マーケットを活性化させる。本日、この全出版人大会が、そうした「好循環」を作り出すための、確かな節目となることを願っています。

本日、皆さまへお配りした記念品は、世界的アーティストの村上隆さんが歌川広重の世界を現代に甦らせた作品をモチーフにした風呂敷です。伝統的な日本の文化を、世界中で愛される現代のアートとして甦らせた村上さんのように、私たちの出版文化もまた、より広く、より深く、世界へと広がっていきけると信じています。

日本の出版文化が持つ力をもう一度信じ、次の時代へつなぐ。その第一歩を、今日、ここから共に踏み出しましょう。

2026年5月7日

第65回全出版人大会

### 優良読書グループの歩み (6)

2025年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。  
(順不同)

#### ゆりかごの会

代表者 佐藤留美子

秋田県由利本荘市

〈推薦〉  
秋田県読書推進運動協議会

「ゆりかごの会」は、秋田県主催の図書ボランティア講習会(旧本荘市が会場)の受講者が、「子どもたちに絵本を読んであげよう」と読みの練習を始めたのをきっかけに、1993年9月に旧本荘図書館を活動拠点として結成されました。現在は由利本荘市文化交流館「カダーレ」内の図書館を拠点に、活動しております。

現在は、10名の会員で運営しており、総会において事業ごとのグループを決め、会員相互でサポートしながら、無理のないスケジュールでみんなが楽しめる環境づくり心がけております。

図書館内で行う事業としては、毎月第2土曜日の「おはなし会」、



「絵本のメッセージジャー」としてこれからも歩んでいきます

せボランティア活動や、市内読み聞かせボランティア団体による「おはなしフェスティバル」にも積極的に参加し、資質の向上に努めております。

そのため、さまざまな事業に万全を期して向かえるよう、読む絵本の選書、エプロンシアターや蛍光パネルシアターなどの準備作業、読みや演じ方、手あそび歌の練習などを意識し、特に下読みには力を入れ、事業に対応しているところです。

選書では、事業ごとにテーマを設け、「楽しい笑いをさそおう絵本」「知的好奇心を誘い出す絵本」など、意図的なメッセージもこめていきます。その甲斐もあり、子どもも大人も本を図書館から借りて、読書に親しんでもらう環境が整ってきたように感じております。

ゆりかごの会発足当初からの「私たちは絵本のメッセージジャー」という思いを忘れずに、ひとりでも多くの子どもたちに絵本好きになつてもらうには、どのような活動をすればよいのか、これからも模索し続けていきたいものです。

#### 詳細小おはなしの会 ひまわり

代表者 疋田 百恵  
京都府亀岡市

〈推薦〉  
京都府読書推進運動協議会

私たち、詳細小おはなしの会ひまわりの発足は、2003年9月です。

当時の亀岡市立詳細小学校校長山下浩子先生の、「この学校で子どもたちのために、保護者で読み聞かせをしてほしい」という切なる呼びかけから、保護者14名が集まり始まりました。グループ名が決まると、山下校長先生はオリジナルTシャツとトレーナーを全員にプレゼントしてくださいました。

ほぼ全員が未経験者で、「読み聞かせ養成講座」を受講して本持ち方から学びました。その後は、読み聞かせや図書関連の講座やイベントに誘いあつて参加しながら、学びやメンバー交流を深めていきました。

発足当初は昼休みにときどきおはなし会をする程度でしたが、2004年度3学期に4年の保護者4名で4年の各クラスに入つて朝の読み聞かせを始めたことか



いただいたひまわりTシャツとトレーナーがユニフォーム

ら、2005年度より全学年全クラスでの朝の読み聞かせが始まりました。その後、イベント(フェスティバル、就学児健診、クリスマス、卒業など)も増えていきました。

コロナ禍、クラスに入れなくなり、給食時間に放送での読み聞かせを始めたところ、「黙食だった給食の楽しみになった」という子どもたちからの喜びの声もあり、現在は朝の読み聞かせと放送での読み聞かせをメインに、4月の新1年生のブックランド(図書室)開き、11月の就学児健診、12月のクリスマス、3月の卒業のイベントをしています。また、図書室の整理、ブッカーかけ、壁飾り作成

と掲示などとしてきました。

22年間続けてこられたのは、学校との関係が良好であったことと、メンバーが活動を続けやすいように、それぞれの希望（入れる回数、入れる日、入りたい学年、クラス、休みたいなど）を優先して当番表を作ってきたことだと思います。現在はグループラインを作り、読んだ本の写真を送り、活動報告をすることで、活動状況をみんなで共有できるようにしています。お子さんの卒業と共に離れていくメンバーもいるので、就学児健診での呼びかけ、チラシ配り、ポスター掲示、口コミなどでメンバー募集を続け、現在も在籍15名で活動できています。

2年前、かけがえないメンバーを病気で亡くしました。メンバーのほとんどが仕事をもち多忙な中でしたが、メッセージカードを書きにきてくれたり、届けてくれたり、配って回収してくれたりして1日でメッセージボードを作り、届けることができました。故人の人望ですが、いざとなったときの協力と結束力のすばらしさに感動しました。

この感謝の心とあたたかい気持ちを持ったメンバーと、詳細の子どもたちとの楽しい読み聞かせ

の時間が、これからも長く続くことを願っています。

### 穆園おはなしの会

代表者 重信 美香

宮崎県宮崎市

宮崎県読書推進運動協議会

（推薦）

2002年10月、高岡町内の小・中学校や施設などで活動していた読み聞かせグループの連絡会として発足しました。各団体間の情報交換やメンバーのスキルアップ研修などを行っていました。

2004年4月、「穆園おはなしの会」と名称を変更し、ボランティア団体（市民活動団体）として登録しました。メンバーは、子どもの読書活動に関心のある保護者に加え、図書館司書、保育士、児童クラブ指導員など、子どもの教育に携わっている人が多くいます。家庭教育学級や生涯学習講座などの場で、家庭における読み聞かせ普及のための講座を開催したり、外部講師を招き、子どもたちにおはなしの楽しさを知ってもらうためのワークショップなどを開催してきました。

今は、中学校や図書室でのお

はなし会を中心に活動しています。町内の小学校2校が共にボランティアの人員が不足しているため、学校の読み聞かせの支援も行っています。

また、若い世代に読み聞かせを体験してもらおうと、中学生への指導にもあたっています。

さて、これまでは、図書室のおはなし会に参加してくれる子どもたちを「待つ」という受け身の活動でしたが、「待ち人きたらず」の状態が続きませんでした。そこで、アウトリーチ型に活動を転換しました。月1回は地域の子ども食堂に向いておはなし会を開催することになり、子どもだけでなく、大人の参加者も増えてきました。



スキルアップをしながら、活動場所も広がりました

また、子どもから大人まですべての世代が楽しめるのも、絵本の魅力です。NHKの朝ドラ『あんぱん』が放映され、やなせたかしさんが取りあげられたこともあり、やなせさんの絵本が大人の間でも話題となりました。それもひとつのきっかけとなり、高齢者サロンなどでの大人向けの読み聞かせや直読教室など、活動のはばも広がりました。

「よ」読んであげて、ちよつとの時間でも

「み」身近に本棚を！（見返りは求めない）

「き」きつと忘れない、心のふれあい！

「か」考えているより、楽しい読み聞かせ！

「せ」世界が広がるおはなしの楽しさ

これからも、無理なく、楽しく、身体が動くかぎり、声が出るかぎり、子どもだけでなく、大人への読み聞かせも続けていこうと思います。

※筆者注「穆園（ぼくえん）」は、高岡出身でビタミンの父と呼ばれている「高木兼寛」の雅号です。高木兼寛の出身地の「穆佐（むかさ）」の「穆」と、母親の名前の「園」からとったものです。

### 日本絵本賞

## ポップ交流サイトを開設

公益社団法人全国学校図書協議会（全国SLA）は、6月中旬より「日本絵本賞ポップ交流サイト」を開設した。

このサイトでは、第31回日本絵本賞（本号3ページ参照）の最終候補絵本30点を対象に、好きな絵本を紹介するポップを募集。応募作品はサイトに掲載され、「いいね」をつけたり、学校の授業で鑑賞するなど、絵本を通じた実践の広がり期待されている。

また、全国SLAでは、ポップ交流サイトを活用した実践校60校を募集。実践校には、日本絵本賞受賞絵本と最終候補絵本のセットを寄贈し、絵本読書活動を展開し、ポップを投稿してもらう。

交流サイトでは、ポップの投稿と閲覧のほか、日本絵本賞最終候補絵本リスト、実践校の募集要項と応募フォームなど詳細が確認できる。

●日本絵本賞ポップ交流サイト  
<https://ehon-pop.jp/sla.or.jp/>

■家の光協会読書ボランティア講座

養成・スキルアップの2講座を用意

一般社団法人家の光協会は、「第23回家の光読書ボランティア養成講座」「第20回同スキルアップ講座」をオンライン配信する。プログラムは以下のとおり。

【養成講座】初心者対象(参加費無料)
・実演・講演「子どもたちと楽しむ読み聞かせ」家庭でも地域でも」講師||安富ゆかり(JPIC読書アドバイザー|絵本専門士)
・実践報告「私の、私たちの、は

【スキルアップ講座】経験者対象(参加費1000円)
・講演「絵本で伝えたいメッセージ」『ももんちゃん』の創作秘話」講師||とよたかずひこ(絵本作家)
・講演「続ける、広げる、深める

■絵本図書館ネットワーク

本年度も全国各地でイベント開催

絵本を中心として読書活動にかかわりのある人々の横のつながり(ネットワーク)創りを旨とする「絵本図書館ネットワーク(佐賀県武雄市)」は、2026年度のイベントスケジュールをホームページで発表した。

現在、7月18日土「絵本でSDGsミートイング」札幌国際大学(北海道)と、7月25日土「子どもと一緒に絵を読もう!絵本がもつと好きになる講演会」

津幡町文化会館シグナス(石川県)の参加申し込みを受け付けている(先着順)。
その後は、9月から来年2月にかけて、高知県高知市内(会場未定)、滋賀県大津市(コラボしがらみ)、東京都23区内(会場未定)、北海道雄武町(雄武図書館雄図びあ)、山形県山形市(東ソーアリーナ)、山形県朝日町(朝日町エコミュージアム)、佐賀県江北町(江北町公民館ホール)、沖縄県立図

読書ボランティア次の一歩へ」講師||安富ゆかり
・座談会「読書と活動の輪を広げる」読書ボランティアの質問に答えます」出演者||安富ゆかり、岩澤寿美子(清瀬市子ども発達支援・交流センターセンター長)、神保和子

配信期間...:7月13日(月)~8月14日(金)
【スキルアップ講座】経験者対象(参加費1000円)
・講演「絵本で伝えたいメッセージ」『ももんちゃん』の創作秘話」講師||とよたかずひこ(絵本作家)
・講演「続ける、広げる、深める



期間中は何度でも視聴可能。申し込み方法など詳細は下記の二次元コード(スキルアップ講座のもの)まで。
(敬称略)

事務局報告(5月)

編集部&事務局のひとこと

- ☆4月23日~5月12日「第68回子どもの読書週間」
・4日・5日「上野の森親子ブックフェスタ2026」開催(恩賜上野公園)
・7日「第65回全出版人大会」出席(ホテルニューオーロラ)
☆8日「機関紙『読書推進運動』702号入稿」
☆11日「機関紙『読書推進運動』702号専号」
・14日「子どもの読書推進会議2026年度第1回幹事会案内」
☆15日「機関紙『読書推進運動』702号出来」
☆15日「各道府県読書推進協、各都道府県立図書館などに「第56回野間読書推進賞」推薦を依頼」
・20日「2026年度講談社松本賞贈呈式」出席(赤坂プリンスホテルクラシック)
・22日「2025年度子どもの読書推進会議(日本書籍出版協会)」出席(日本書籍出版協会)
☆26日「2026年度第1回理事会」出席(出版クラブ)
☆27日「2026年度定時総会」および第2回理事会案内(郵送)
・29日「日本児童文学者協会」学習交流会・各賞贈呈式出席(出版クラブ)



読書推進運動協議会 X (旧 Twitter)

●5月29日、日本児童文学者協会の学習交流会「私たちの知らないイスラエルとイラン」犠牲になるのはいつ子どもたち」に参加しました。(ハブライ語訳家の樋口節子さん、ベルシャ語訳家の愛甲恵子さん、トルコやイランを舞台とした物語を紡ぐ新藤悦子さんがパネリスト、ホロコウストを描いた作品の翻訳もある、オランダ語訳家の野坂悦子さんが司会です。
●自身携わった作品や、親交のある作家、訪れた風景から紹介されるイスラエルとイランは、共通する食べものがあったり、2万を超えるイラン出身の人がイスラエルで暮らしている、イランの民話がいすラエルで出版されているなど、日常生活のなかでのつながりがけつこうあつて、驚きました。それだけに、「両国について」戦争のニュースしか流れてこないのが怖い。国全体が戦争をしているのではなく、ふつうの人たちがふつうの暮らしをしていること、これが伝わらないと、(暮らしを破壊する)空爆の恐ろしさがわからない」という新藤さんのことは、心に残ります。
●即時性が求められる報道で、外国のふつうの暮らしを取りあげることがはむずかしく、物語だからこそ、リアルな日常と戦争の関係を充分に描くことができる。そういえば、今年の日本絵本賞大賞『いま、日本は戦争をしている』太平洋戦争のときの子どもたち』も、当時の子どもたちの生活をいねいに描き、戦争の理不尽さを伝える一冊でした。(伸)